

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870800202
法人名	医療法人雄康会
事業所名	グループホームレオナ
所在地	愛媛県四国中央市金生町下分 1 4 2 3
自己評価作成日	平成27年7月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>たくさん笑顔がみられるように お互いに理解しあえる関係作り而努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は、「利用者を楽しい気分になってもらえるように、にぎやかな雰囲気作り」に取り組んでいる。職員おそろいのエプロン等はピンク色で、色彩等も明るい色を使用している。廊下にはラジカセを置き、音楽をかけて歩行練習する時間を作っている。居間や廊下の壁には、納涼祭のため作成した花火やひまわりの貼り絵の大作が飾られていた。</p> <p>納涼祭に来られるご家族に、利用者が「来てくれてありがとう」とお礼の手紙を書いて渡せるよう支援したり、暑中見舞いを出せるようサポートして、ご家族等との良い関係を続けられるよう支援している。</p> <p>事業所は併設サービスと合同で行事に力を入れて取り組んでおり、納涼祭やクリスマス会等、地域の方も一緒に楽しい時間を過ごせるように企画している。又、7月の四国中央紙まつりには、事業所で灯籠をつくって商店街に飾り参加した。散歩時に畑仕事する近所の方とあいさつやお話したり、又、地域行事や事業所の行事参加等を通じて、地域の方達と関係を作っており、運営推進会議への参加にもつながっている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームレオナ

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 石川千寿子・表内咲子

評価完了日 27年 7月 13日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念が実践につながるように機会があるごとに話し合っている。 (外部評価) 事業所は開設時に、「自分らしく生きていく」と理念を掲げており、「主体性」「生活の自立」「精神的自立」の支援を目指している。3年前にはユニットごとに理念をつくり、職員それぞれが意識して支援に取り組んでいる。理念はケアを振り返る際の拠りどころとなるものであり、今後さらに、管理者は日常的に理念を語って職員をけん引していかれてほしい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 天気の良い日にでかけて(散歩)挨拶したり 声をかけて頂いている。ホームに訪問してもらいお茶したりする事もあり 日常のお付き合いもしている。 (外部評価) 事業所は併設デイサービスと合同で行事に力を入れて取り組んでおり、納涼祭やクリスマス会等、地域の方も一緒に楽しい時間を過ごせるように企画している。又、7月の四国中央紙まつりには、事業所で灯籠をつくって商店街に飾り参加した。散歩時に畑仕事する近所の方とあいさつやお話したり、又、地域行事や事業所の行事参加等を通じて、地域の方達と関係を作っており、運営推進会議への参加にもつながっている。管理者代理の方は、「地域の誰もが知っており、レオナに入居したら安心」と言ってもらえるような事業所を作っていきたいと話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 高齢者また家族の方の悩み相談に応じられる対応を受け付けている。高齢で一人暮らしの方の近所を散歩コースに取り入れ 外に出ていたら ホームへの訪問を促すなど声をかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議の中で行事の報告や相談を受け付けしている。地域の事情に詳しい方に意見を聞き 外部からの視点を取り入れて改善に生かしている。</p> <p>(外部評価) 一時間程度の会議を行っている。利用者、ご家族も複数参加しており、ご家族同士の交流の場にもなっている。会議時には、順番に自己紹介をして、事業所からは、行事案内、外部評価の説明、利用料金変更等、連絡事項を伝えている。地域の組内の方は、地域の盆踊り等、地域行事の予定を教えてください。</p>	<p>さらに、事業所の理解者、協力者を増やしていけるような会議に工夫してほしい。会議での意見等を活かしながら取組みをすすめ、事業所のサービス向上につなげる仕組みを作ってはどうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 分からないことは市役所窓口にお問い合わせしている。</p> <p>(外部評価) ふれあい相談員が月に1回訪問して、利用者からお話を聞いている。運営推進会議には地域包括支援センター担当者が参加しており、他事業所の取組み等を教えてくれることもある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束しないケアの大切さを職員全員が理解している。歩行困難な入所者には 食堂で過ごしてもらおう等 職員が目が届く範囲内で安全に生活できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束排除の方針」を職員室に掲示しており、職員それぞれに確認するようになっている。足のふらつきが見られる方には、安全に歩行できるようベダル漕ぎ器具を使って運動等ができるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待について理解できるように掲示し 見過ごすことのないように点検している。介護ストレスが虐待につながらないように 話し合いの機会を多くもっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 文書にて理解し 学ぶ機会を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明をし 家族の意見を聞いている。分からないことがあれば 都度説明する場もある。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・要望を全員で共有し 運営に反映させている。ふれあい相談員の方を受入れ 意見を受け止める体制がある。 (外部評価) ご家族は、行事や運営推進会議へ積極的に参加している。ご家族は、毎月の利用料金を持参するようになっており、職員はその機会を活かしてケアへの要望等を聞くようにしている。ご家族から、「何をしたらいいですか?」と聞かれることもあるようだ。	今後は、情報発信の工夫やご家族と一緒に利用者の暮らしを支えていけるような取り組みについても、工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			懇親会の場で話し合いを設けている。運営に関する職員の意見や提案なども 日々ミーティングで話し合っている。	
			(外部評価)	
			ユニット合同の月例会時に課題等を議題に挙げて話し合っている。事業所が力を入れて取り組む「行事」については、職員の入れ替わりがあっても継続できるよう、他職員等がサポートしている。8月には事業所で花火大会を催し、職員の家族等も来て楽しむ機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員の資格取得に向けて支援している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			力量にあった研修に参加できる機会を確保している。希望の研修に参加できるように 可能な限り機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他のグループホームを訪問したり 行事に案内するなど ネットワークが広がるように取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			職員と利用者間でゆっくり話し合う機会を作っている。日々の表情などを見て 気づきを主として 不安や要望を理解できるよう 声かけ 傾聴している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	家族参加で話し合う機会を持ち 些細なことでも話し合うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	必要としている事や 伝えたい事を理解できるように話し合いの機会を持ち 支援を見極めるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	一緒にレクレーションを楽しんだり 外出時に一緒に食事したり 喜怒哀楽を共に味わい 家族のような関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	行事・イベントの参加で家族と職員との交流をはかり また訪問時や電話での連絡時には日々の生活を詳しく話し 共に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	散歩コースを考え なじみの人との交流 馴染みの場所できつるぐ等 できるよう努めている。	
			(外部評価)	納涼祭に来られるご家族に、利用者が「来てくれてありがとう」とお礼の手紙を書いて渡せるよう支援したり、暑中見舞いを出せるようサポートして、ご家族等との良い関係を続けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し かかわり合える工夫をしている。作品作りやカラオケなど みんなで一緒に楽しめるレクレーションを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了しても行事案内をしている。道で会うと挨拶し 立ち話をして交流している。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 昔話をしながら これまでの生活の話題をよく聞くようにしている。また家族からも面会時に情報を得ている。 (外部評価) 介護計画作成前には、「出来ること出来ないこと」シートにて「入浴」「排泄」等の項目に沿い利用者の立場から記入して、個々の現状把握に努めている。	事業所では、「利用者の希望を聞き支援する」ことが事業所の特長と考えている。今後はさらに、利用者一人ひとりの生活歴や現在の暮らしの希望、又、これからの暮らし方の希望等についての情報を集めて、支援につなげていく仕組みを作ってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴から馴染みの暮らしを家族との会話の中で 経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 健康状態の把握、生活リズム、行動や動作から感じ取っている。介護記録は出勤日でない日も目を通し 把握するようにしている。申し送りや口頭で話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の生活を安心してくらししていけるよう面会時に家族との中で話しを取り入れる時もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護記録内容は、毎月要約して利用者の状態等についてまとめとめており、介護計画作成時のアセスメントとしても利用している。職員で話し合い、支援の工夫等について意見を出し計画に反映している。さらに、利用者の持っている力を活かして、地域資源等も活用しながら支援できるような計画作成にも工夫されてほしい。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>気づいた時はその都度はなしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人 家族 との中で状況判断し取り入れている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ふれあい相談の方々の協力を得て 悩みや相談、交流をもち 安心して地域で暮らせるように見守り支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望で医療を受けられるようにしている。医療機関との連絡を密に行っている。	
			(外部評価) 母体法人の医療機関が隣接しており、必要時には夜間でも診てもらえるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師に気軽に相談にのってもらえる関係を築き 日常生活の留意点や健康管理に気をつけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院した時は 定期的に訪問し 病院関係者と退院後の生活の相談をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期については 入所時点で話し合いを持ち 入所後は家族の訪問時には話機会を持つようして 意識している。	
			(外部評価) 現在、利用者やご家族は最期まで事業所で過ごすことを希望している方がほとんどのようだ。この一年間で、2名の看取りを支援しており、ご家族はおむつ交換や体を拭く等されて、協力し合って看取られた。甘いものがお好きだった利用者には、職員が医師やご家族に確認を取りながら、最期までプリン等を口にできるよう取り組まれた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習を受講している。応急手当初期対応の訓練を定期的に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議・月例会で災害時の避難経路を確認し 連絡手段についても話し合いをしている。地域との協力体制は自治会内で周知して頂き 協力体制を築いている。	自然災害への備えについては、地域との協力についても運営推進会議で話し合う等しながら、具体的な体制作りに取り組んでほしい。
			(外部評価) 年2回避難訓練を行っており、内1回は消防署の協力のもと行っている。運営推進会議時には、立地条件を踏まえ、災害時の避難についてのアドバイスや事業所内の避難経路等を一緒に見て回りながら、アドバイスいただいた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人 その時の気持ちにあった声かけをしている。プライバシー、プライドを損ねない様に対応している。	
			(外部評価) 職員は、利用者に子育てについて相談したり、助言をもらったり、個々の得意なこと等を知り、教えてもらうような場面を積極的に作っている。調査訪問時、職員は、ゆっくりと、やさしい口調で利用者に声かけしている様子が見られた。入居時には、利用者やご家族に、「これまでどう呼ばれていたか」を聞き、職員は利用者を「じいちゃん」「おばちゃん」「〇〇ちゃん」と呼んでいる。利用者の呼び方については、月例会で話し合うこともあり、利用者の笑顔等を観察して満足度をはかっており、状態を見て「このままで良い」ということになっているようだ。今後も、利用者と職員の距離感が適切であるか、又、職員が作り出す雰囲気、第三者からの意見等も踏まえて点検して検討を重ねてほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者、家族の希望を聞き 本人の想いをくんで 納得できるように暮らせるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の意思を尊重し 一人一人のペースを大切にしながら できない方には職員が声かけをして 輪に入れるように状況作りをする。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 以前から利用している美容室に行かれる方もある。ホームにて散髪(訪問散髪サービス)する方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備が出来る方には できる事を手伝ってもらう。時には外食をし 好きなメニューを選んでもらう。 (外部評価) ユニットでおかず等を役割分担して、事業所で食事を作っている。職員は同じものを食べながら介助したり、話しかけていた。ご自分の力を使って食事ができるよう、調査訪問時、カレー用のスプーンは、それぞれの状態に応じて自助具やレンジ等も使用していた。豆むき等、利用者ができる作業を行なえるような場面を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量を1日とおして把握できるように記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨きの声かけをし自力でできない方は職員が介助している。入れ歯は定期的に洗浄している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツ利用の方もできるだけトイレで排泄できるように声かけにて誘導している。排泄パターンは記録で把握し気持ちよく排泄できるように支援している。	
			(外部評価) ご自分で安全にトイレに行き排泄することを続けられるよう、歩行練習等も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便記録、体操、電動バイク、ロデオ運動、歩行を行う。牛乳や青汁を飲んだり 食生活にも気をつけている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 定期的に入浴している。気持ちよく入浴できるように入浴剤をいれたり 体調に合わせて希望通り入浴時間がとれるよう支援している。	
			(外部評価) 現在入浴は、月曜日と金曜日の週2回、入浴剤等を入れたり、好みの湯温等にして支援している。重度の利用者も職員が2人で介助して湯船で温まれるよう支援している。入浴を拒む方もあるが、「入浴後にジュースが待っているよ」「おいしいごはんができてよ」等と誘って、入浴日に入ることができるよう努力している。どうしても断るような場合は、次の日にずらして支援し、利用者全員が週2回は入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 気持ちよく眠れるように日中は身体を動かしてもらおうようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 用法、用量など服薬した時に説明を受けている。症状の変化の時には主治医にあおげるよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活する上で 本人ができることを見つけ 家事(食事作り手伝い、洗濯たたみ等を行っている)カラオケ、散歩、外出などおこない気分転換している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日 外に散歩に出たり 戸外にドライブに出かけたり 食事をしたり 公園にてお弁当を買ってもっていき 食べたりしている。	
			(外部評価) 利用者の友人がご自宅の菖蒲の花が咲くと連絡してくれて、利用者数人で楽しみに出かけている。利用者から美容室に行きたいと希望があれば、近く美容室の利用を支援したり、職員と一緒に探して、送迎等して支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在お金は職員管理している。(本人困難な為)	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りは難しいが 本人の希望にて電話できるように支援している。全員は難しいが できる方にはしてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 四季を感じてもらうために 季節に関係するものを作ったり飾ったりしている。掃除は徹底して清潔にしている。日光が部屋にとりくめるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 職員は、「利用者に楽しい気分になってもらえるように、にぎやかな雰囲気作り」に取り組んでいる。職員おそろいのエプロン等、ピンク色で、色彩等も明るい色を使用している。廊下にはラジカセを置き、音楽をかけて歩行練習する時間を作っている。居間や廊下の壁には、納涼祭のため作成した花火やひまわりの貼り絵の大作が飾られていた。3階ユニットのベランダにはゴーヤ等をプランターで育てており、時々利用者が水やり等している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 食堂にソファを置き入所者同士のコミュニケーションがとれるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅より使い慣れたダンス、鏡台、椅子などをもってきてもらい使用している。</p> <p>(外部評価) 横になって休む時以外、利用者は居間で過ごしており、居室不在時は窓を開けて換気をしている。鏡台を持ち込んでいる方は、引き出しにご自宅で使用していたカーラーや髪飾り等も入っており、職員がサポートして鏡を見たりしながら過ごすこともある。又、姉妹からの手紙やご家族との写真等を壁に貼り、時々話題にして利用者のご家族のことを大切に思い続けられるよう取り組んだり、ご家族と一緒に利用者のお好きな色や好みの小物等でしつらえているところもあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下や浴室に手すりや滑り止めマットを使用している。使用物を所定の位置にしたり 杖置きを作ったりと工夫している。</p>	